

日野町まちづくり出前講座

町では、住民の皆さんの参画と協働のまちづくりをさらに進めるために、「まちづくり出前講座」を開催しています。

皆さんがお聞きになりたい内容をメニューから選んでいただき、町の職員が皆さんの所へ出向いて

お話させていただくものです。自治会・団体・グループでお気軽にご利用ください。

※メニューは日野町ホームページをご覧ください。お問い合わせください。



申し込みから講座の実施までの流れ

①申し込み

自治会・団体・グループ（日野町内にお住まいお勤めの方10人以上）で聞きたい講座を選び、役場企画振興課までお申し込みください（電話・FAXでも受け付けています）。

※開催予定日の2週間前が申し込み締め切りです。

②役場内で日程調整、結果連絡

申し込みいただいた内容を担当課と調整させていただきます、その結果を文書で連絡します。

③出前講座の実施

担当職員が会場へ出向きお話しさせていただきます。開催時間は約1時間から1時間半程度です。会場は主催者側で準備をお願いします。

◆申し込み・問い合わせ先 企画振興課 秘書広報担当 ☎0748-52-6550 FAX0748-52-0089

感雑向綿

— 2019年4月 —
日野町長 藤澤 直広

春本番、暖かい風にそよぐホイノボリ、ピンクの花びらが青空と木々の緑に映えます。五穀豊穰、社会の安泰を願う春祭りがそこかしこで行われます。湖東地域最大の祭り、日野祭が850年を迎えます。先月10日には、日野祭囃子共演会が開催されました。16基の曳山で奏でられる17町内会が勢ぞろい。小中学生も立派に演奏を披露、伝統文化を努力して継承されていることをありがたく思います。祭りは民衆の力の象徴、自治の力でもあります。

民衆の力といえ、2月24日、沖縄県で辺野古への基地建設の是非を問う県民投票が行われ、投票率が50%を超え、基地建設反対が70%を超えました。県民の圧倒的な世論が示されました。憲法95条には、「1つの地方公共団体のみに適用される特別法は、…住民の投票においてその過半数の同意を得なければ…制定することができない」とあります。明治の廃藩置県に

よる「琉球処分」、「本土決戦の捨て石」と言われる沖縄戦、戦後の米軍による軍事統治、そして日本の米軍基地7割を超える基地の現状、「県民の心に寄り添う」というのであれば、県民投票の結果を尊重し、基地建設は断念するべきです。

地方自治法は有権者の50分の1の署名によって、条例制定の直接請求を認めています。日野町では、合併問題をめぐって「合併の是非は住民投票で決めよう」と直接請求が2度取り組まれました。いずれも有権者の半数近い8,000人を超える署名が寄せられました。当時の町議会では、住民投票条例を否決しました。その後、町長リコールが取り組まれ、結果として町長選挙となり、蒲生町との合併は白紙撤回することができました。「自分達の町のこと自分達で考え行動する」という自治の気風が日野町にあります。

第6次日野町総合計画（2021年から2030年）を策定する準備をスタートさせます。住み続けたいまち、住んでみたい町をめざし町民の皆さんと力を合わせたいと思います。

温故知新

日野歴史探訪 はじまります

私たちの住む日野町には、52の大字があり、それぞれの地域が豊かな自然と歴史文化でいろどられています。

温故知新では、町内各大字の歴史と代表的な文化財をシリーズで紹介していきます。

ついでに。

水神へのまつりのあと

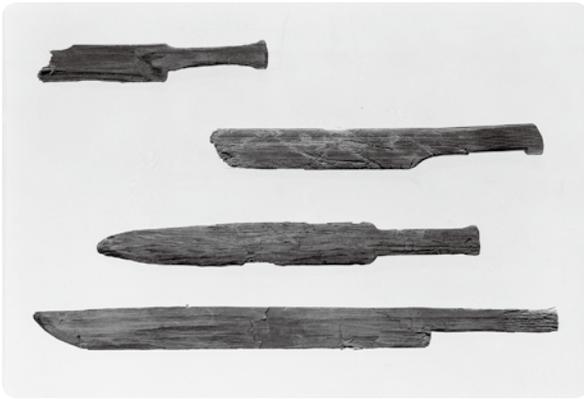
宮ノ前遺跡は、奈良時代も一般的な集落が広がっていたと考えられています。様々な特殊な遺構や遺物が見つかっています。

石原

日野町の西部、日野川と支流の出雲川の合流部付近に位置しており、北は東近江市と接しています。また、集落東側の水田地帯には、中世は「市道」などと称し、後世は「御代参街道」と称された道が南北に通っており、石原にはその宿場が設けられていました。

石原のあけぼの

石原一带に人々の営みが見られ始めるのは、今から約2千年前の弥生時代の終わり頃のことです。昭和59年に降に集落の東側に広がる水田地帯で行われた宮ノ前遺跡の発掘調査で、様々な形の土器が出土しています。これまでの調査では、弥生時代の明確な建物跡は見つかっていませんが、この遺跡は、東近江市の外広遺跡まで続く広大なもので、そこでは方形周溝墓など多くの遺構が見つか



宮ノ前遺跡の沼跡から見つかった刀や剣形の木製品

和同開珎：百枚の埋蔵銭

まず特筆されるのは、5世紀中頃から6世紀と考えられる沼跡から見つかった約四百点に及ぶ木器類です。農具や漁撈具、容器、建築部材など多種多様なものですが、中でも刀形や剣形、鏃形といった形代と言われる祭祀具が見つかったことは、農耕や生活に重要な水の神様への祭祀を示すものと考えられています。

さらに、8世紀と考えられる遺構から、土師器の甕に納められた百枚もの「和同開珎」が見つかりました。和同開珎とは、和銅元年（708年）に発行された銅銭です。当時その価値は、1枚（1文）が1日の労働の対価とされており、平城京造営の費用などにも使われましたが、その他の大きな目的としては、銭貨自体を全国へ流通させることでした。

宮ノ前遺跡の和同開珎は、百枚が数珠つなぎとなった「さし銭」の状態で見つかりましたが、周囲の状況から墓などへの供献とは考えられません。また、溝跡から一般的な集落跡から見つかる例の少ない、円面硯や瓦片も見つかったことから、付近に役所的なものや、官人など有力者の居宅などがあり、その一角に埋納されたものと考えられています。



宮ノ前遺跡で見つかった和同開珎

『続日本記』には、和銅4年（711年）10月に多くの銭貨を貯蓄した者に対して、量に応じて位を授ける「蓄銭叙位法」が定められ、翌月4日の条には実際に位が授けられたことが記されています。宮ノ前遺跡に和同開珎百枚を貯めた人物とは、いったいどのような人物だったのでしょうか。蓄銭叙位法によって位を授けられたのでしょうか。中央政権との関わりがあったのでしょうか。あるいは他にも銭貨が眠っているのでしょうか。こうした多くの謎を秘めた遺跡が石原地区には残っているのです。